

地域・在宅看護論Ⅰ実習

ねらい：地域で暮らす人々の多様な価値観と健康観を知り、「生活者」の健康を支援する場と機会について理解する

1) 実習目標

1. 地域における多様なコミュニティーを知る
2. 地域で暮らす人々の多様な生活観、健康観を知る
3. 活動を通して、生活が健康に及ぼす影響について考える

2) 到達目標と実習目標

実習目標	到達目標	学習の視点及び課題	学習方法
1. 地域におけるコミュニティーを知る。	①施設の特徴と設立主旨、活動目的がわかる。 ②地域におけるコミュニティーの特性が説明でききる。	①老人福祉センターの概要 ②福祉施設関連の概要 ③自助・互助・共助・公助の概念 ④暮らしを支える関連施設の職種、活動内容	①事前学習 ②実習記録 ③カンファレンス
2. 地域で暮らす人々の多様な生活観、健康観を知る。	①コミュニケーションを通して生活者としての思い、願いを知る。 ②健康についての思いを知ることができる。	①利用されている地域の人々とのコミュニケーションの実際 ②対象者を尊重した姿勢・態度、関わり方 ③関係構築のためのコミュニケーションの基本 ④国際生活機能分類（ICF）	①活動に参加 ②実習記録 ③カンファレンス ④実習記録
3. 交流、活動を通して、生活が健康に及ぼす影響について考察する。	①交流、活動を通して、コミュニティーの意義がわかる。 ②健康を支援する場と機会について考える。	①地域包括ケアシステムの概念 ②生活の質(QOL) 生きがい、健康の概念 ③社会資源の活用	①活動に参加 ②実習記録 ③カンファレンス ④レポート

3) 実習展開

1. 実習場所：老人福祉センター 2日間（8時45分～17時／休憩時間45分含む）
7時間30分／1日（*10時間カウント）

施設オリエンテーション 施設概要と事業目的、活動内容を知る
活動参加を通して対象者との交流ができる
交流、コミュニケーションから健康への思いや価値観、生活観を知る

2. 実習場所：総合福祉センター関連施設 半日（9時～12時または13時～16時）
3時間／*4時間カウント

地域福祉事業の活動見学や施設見学、参加等行き様々なライフステージにある人々の生活と健康支援の機会について考える

候補施設) 地域福祉センター 希望の家
 子ども食堂
 京都市 人まち交流センター
 国際交流会館
 青少年活動センター 等

③学内実習 実習前 1コマ (2時間)
 実習後総括 2コマ (4時間)

実習展開 (例)

日程	実習内容
1日目 (2時間)	実習前学内実習 事前学習内容の確認、事前ガイダンス、コミュニケーション、インタビューの実際
2日目 (10時間)	老人福祉施設でのオリエンテーション・施設見学
3日目 (10時間)	老人福祉施設での活動や交流の参加、見学
4日目 (4時間)	福祉施設関連 様々な活動の場と利用者との交流 活動を支える人々から学ぶ
5日目 (4時間)	実習後 学内実習 総括 ポスター発表

実習総括の方法

全体総括会 * 2コマ (4時間カウント)

90分 実習での体験、記録からの学びの振り返り共有
 ポスター作成
 90分 発表、まとめ

4) 記録用紙 概要

実習記録		配布枚数
①実習計画表		1枚
②地域・在宅Ⅰ	事前学習ワークシート (学習課題の項目を整理する)	2枚
③地域・在宅Ⅱ	施設の概要 (設立趣旨、関連法規、事業内容等)	2枚
④地域・在宅Ⅲ	実習日誌 (体験のまとめ)	3枚
⑤地域・在宅Ⅳ	-生活と健康について-	1枚

5) 提出ファイルについて

学内実習日に、ファイルにインデックスを付け以下の順に綴じる。

- *①実習計画表から⑤地域・在宅Ⅳまで順番に綴じ、最後にレポート課題・安全に関するカンファレンス記録・事前学習を綴じる。
- *実習評価表は、指定された日時に直接教員に提出する。

6) 実習評価

- (1) 評価対象は、実習時間数の3分の2以上出席した者とする。
- (2) 実習記録、実習評価表は、実習終了後に各施設へ提出する。
- (3) 他者評価は、実習先の施設長の意見も含め、最終的に科目担当者が行う。

地域・在宅看護論Ⅰ実習 実習評価表

学籍番号		学生氏名	総欠席時間数				
実習 施設	() 老人福祉センター		実習期間	年 月 日～ 月 日			
			実習日	月 日			
	*学内実習日		月 日 / 月 日 / 月 日				
評価の視点						自己評価	最終評価
目標 1	1) 施設の特徴と設立主旨、活動目的がわかる						
	2) 地域におけるコミュニティーの特性が説明できる						
目標 2	1) コミュニケーションを通して生活者としての思い、願いを知る						
	2) コミュニケーションを通して健康についての思いを知る						
目標 3	1) 活動、交流を通して、コミュニティーの場の意義がわかる						
	2) 健康を支援する場と機会について考察できる						
実習態度	1) 実習にあたり必要な学習を抽出し、事前学習をすることができる						
	2) 指定された期限内に記録できる						
	3) 疑問点について質問や自己学習できる						
	4) 助言を受け止め、自己の意見も言える						
	5) グループ内で役割を果たし協調できる						
	6) 時間を守ることができる						
	7) 身だしなみを整えることができる						
	8) 適切な言葉使いができる						
	9) 事業、施設関係職者、利用者と良好な人間関係の構築に向けて努力できる						
	10) 実習施設でのルール、個人情報保護できる						
	S	A	B	C	D	自己評価	最終評価
記録 (レポート)	具体的・論理的かつ簡潔に事実を記述できる。適切に専門用語を用いている。文献を用いて、考察を深めることができる	具体的・論理的かつ簡潔に事実を記述できる。適切に専門用語を用いている。既習の知識を活用し、記録の追加・修正、考察ができる	具体性に欠ける箇所もあるが、専門用語を用いて概ね事実の記述できる。カンファレンスや他者の意見により、記録の追加・修正、考察ができる	具体性に欠ける箇所もあるが、概ね事実を記述できる。記録の見直しが不十分	具体性に欠け、抽象的表現が多い。記録の見直しができない		
						総合評価	
科目担当責任者						印	

*評価の記入方法 ◎できる ○助言でできる △多くの助言でできる ×できない

実習計画表

学籍番号 _____ 学生氏名 _____

月	8	9	10	11	12	13	14	15	16
()日	予定								
()曜 日	実施								
目標の振り返り									
()日	予定								
()曜 日	実施								
目標の振り返り									
()日	予定								
()曜 日	実施								
目標の振り返り									
()日	予定								
()曜 日	実施								
目標の振り返り									
()日	予定								
()曜 日	実施								
目標の振り返り									

(専)京都中央看護保健大学校 看護保健学科

地域・在宅Ⅰ事前学習

事前学習 ※老人福祉センターの概要、実習目的・目標に関連する必要な学習課題の抽出

学籍番号 _____ 学生氏名 _____

(専)京都中央看護保健大学校 看護保健学科

地域・在宅Ⅱ

学籍番号

学生氏名

実習施設の概要・特徴 ()

--

(専)京都中央看護保健専門学校 看護保健学科

地域・在宅Ⅱ実習日誌

場所 ()

学籍番号

学生氏名

時間

月 日

実施・体験したこと

感想・学び

--	--	--

(専)京都中央看護保健専門学校 看護保健学科

学生氏名

学籍番号

地域・在宅Ⅳ 一生活と健康について一

特徴は、

その学びを得た実際の場面・体験

特徴は、

その学びを得た実際の場面・体験

特徴は、

その学びを得た実際の場面・体験

特徴は、

その学びを得た実際の場面・体験

(専)京都中央看護保健大学校 看護保健学科